



橋本 和明(花園大学社会福祉学部教授)

—共感不全への支援—

自閉症スペクトラム障害(※)の特性の一つに、他者とのコミュニケーションが円滑に行かず、相手の気持ちが十分に読み取りにくいことが挙げられます。いわゆる共感不全の状態です。子育てにおいてはこの共感力がとても重要な養育能力の要素となります。つまり、保護者が子どもの気持ちを汲んでゆったり働きかけてやる必要があるのです。ところが、保護者に発達障害があり、共感力が十分に備わっていなければ、親側の身勝手な子育てを押しつける形となって、それが時には不適切だと指摘されかねません。殊に、言葉をまだ持たない乳児期の子育てにおいては、保護者のより一層高い共感力が要求されます。子どもが泣いた場合のあやし方一つを取ってみても、お腹を空かしているのだろうか、おむつが汚れて気持ち悪がっているのだろうか、眠いのだろうか等々、試行錯誤をしながら適切な対処方法にたどり着くのが一般的です。ところが、その共感力が十分でないと、泣き止まないわが子にイライラを募らせて、思わず乳児を揺さぶって脳に深刻なダメージを与える“乳児ゆさぶり症候群”という虐待に至ることもあります。このようなケースに早く支援の手が差し伸べられることが必要で、保護者の共感不全を援助者がすばやくキャッチし、それへの具体的な対処方法を提供していくことが重要です。

【3時間ごとの授乳を徹底する母親の事例】

母は自閉症スペクトラム障害があり、他者の気持ちを理解することが苦手で、こだわりが強い特性がありました。子どもを出産し、母なりに懸命に育児をこなしていたのはよかったのですが、3時間ごとの授乳を徹底することに厳格過ぎるところがありました。子どもがすやすや寝ていても、3時間が経過すると起こしてまで授乳をするので、子どもはそのたびに大泣きしてしまうのです。通常なら、「気持ち良さそうに寝ているのなら起きるまで寝かせておこう」と思うでしょう。しかし、この母親は規則正しく授乳をすることを優先させ、それが子どもにとっても望ましいことだと考えてしまい、3時間ごとの授乳をしないと不安で仕方なかった面もありました。

—意図しない心理的虐待への危険—

発達障害であるために共感力が乏しい保護者の子育て

は想像を絶するほどにきついものです。また、子どもの方も自分の思いがなかなか保護者に届かない苛立ちを抱えて育っていき、親子のすれ違いが時間を経るにつれてどんどん膨らんでくるのです。

【わが子に暴言を吐いてしまう心理的虐待の母親の事例】

母は自閉症スペクトラム障害の傾向がありましたが、その息子もコミュニケーションに課題があり、非常にこだわりの強いところがあり自閉症スペクトラム障害と診断されました。すると、母はわが子に「お前は障害者か」という言葉を平気で口にし、それを人前でも言うことができました。

これは心理的虐待に当たりますが、通常の心理的虐待ではこのようなことを言うと相手は傷付くだろうということを前提に言っていることがほとんどです。しかし、共感力の低い保護者の場合に、このことを言うと相手がどれほど傷付くのかを配慮もせぬまま言ってしまいがしばしばあります。つまり、その人が思ったこと感じたことをそのまま言葉にしてしまうわけで、相手を陥れようとする否定的な感情があったわけでもありません。この母親の場合も言葉だけを取り上げると酷い暴言に違いないのですが、実際には子ども想いな面も多分にあったのです。このように共感力の乏しさゆえに、保護者自身も意図せぬところで心理的虐待となってしまう危険が生まれてきます。

子育てにおいては、子どもの気持ちに立てる保護者の共感力によってこそ親子の相互交流が生まれ、やがては成長の土台となる基本的信頼関係が築き上げられます。そう考えると、発達障害のある保護者には、共感力に代わる適切な対処法を持ってもらうことが実際のところ必要です。私はその対処法がマニュアル通りでなくても、あるいはオールマイティなものでもなくてもよいと思うのです。保護者の手持ちの力を精一杯発揮でき、やれるところから手を付け、できるところを増やしていき、目の前の子育てを乗り越えていくことができさえすれば十分で、その子育てで技術の積み重ねが大きな力になると思うのです。

(※)発達障害の一つで、社会性の獲得が難しかったり、コミュニケーションが円滑に行かなかったり、こだわりが強いなどの特性がある。

report

第21回日本子ども虐待防止学会にいがた大会 “つながりへのチャレンジ”

開催：平成27年11月20日～21日 一新潟市—

当協会からも20余名が出席。その内3名による、ミニ報告会が当協会のスタッフミーティング(12/8)で行われました。大会では、シンポジウム、教育講演、特別講演、国際プログラムなど充実したプログラムが企画され、参加者は

その中から、関心のあるものを選び受講。居所不明児童、少年非行と虐待、進化生物学の立場から見た虐待についてなど、報告された内容はどれも興味深く、多くの学びと刺激を得た2日間であったことが伺われました。